

先日、東京での仕事のために乗った新幹線が高崎を過ぎたころ、車窓から麦畑が見えた。麦の穂が風になびき、絵に描いたような麦秋の光景である。

「麦秋」といえば小津安二郎である。結婚に関心を示さない娘を原節子が演じ、その娘を早く結婚させたい老夫婦を菅井一郎と東山千栄子が演じた。映画史上第一級の作品である。

当時でさえ縁談をめぐるってみんな苦労している

時々 草々

が、少子化の進む現在の日本社会では「婚活」という言葉ができるほど、結婚が困難なものと思われはじめている。「親のための婚活セミナー」

である。そんなところに出かけていく人間の子どもと誰が結婚するかという気もするが、当事者は真剣なのだろう。コンパなどでそういう

越智 敏夫 (新潟国際情報大教授)



話を学生とすると、彼らがときどき口にするのが「新潟に杉と男は育たない」という言葉である。これはいったい何を意味

「杉と男」は禁句に

は特定の政治的意図が必ず隠されている。この場合、何が隠されているのか。

表面的な意味も様々な

新潟の男は甘やかされて育ち、女は厳しく育てられる」、あるいは「だらしない新潟男をしっかりと新新潟女が支える」とい

される。家庭内で男の労働は軽減され、女の労働は苛酷になる。そのような男女間の不平等な労働環境が容認、推奨される新潟で、女性は家庭を築く気になるだろうか。そう

しているのだろうか。以前、本欄で県民性論を批判したときに述べたように、こうした表現に

解釈が可能だろうか、この言葉は一般的には「新

ったことを指しているのだからと思う。

いえばこの表現を男子学生は自虐的に使い、女子学生はうんざりした表情で話していたことを思い出す。

おち・としお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶応大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に教授。専門は現代政治理論。

しかし重要なのは、こういう言葉は常に規範化する点である。つまり「そうすべきだ」という命令となる。その結果、新潟では男はだらしない許され、女はしっかりと

せめて新潟県だけでも少子化を止めたいのなら、この表現を条例で禁止すべきだ。もちろん冗談ですが。

せめて新潟県だけでも少子化を止めたいのなら、この表現を条例で禁止すべきだ。もちろん冗談ですが。

おち・としお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶応大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に教授。専門は現代政治理論。

しかし重要なのは、こういう言葉は常に規範化する点である。つまり「そうすべきだ」という命令となる。その結果、新潟では男はだらしない許され、女はしっかりと

せめて新潟県だけでも少子化を止めたいのなら、この表現を条例で禁止すべきだ。もちろん冗談ですが。